

公表

事業所における自己評価結果（放課後等デイサービス）

事業所名		公表日				
ふりすくもーど		R7年 4 月 28 日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	1	個別、集団での活動の部屋を分けたり、パニック防止のため、部屋の移動等の工夫をしている。	利用人数が多い日は十分な活動スペースの確保が難しい時もあるので活動内容を考えていく必要がある。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	6		子どもたちの特性に合った支援を行っている。	職員の配置数は適切である。今後も良好な状態を継続していく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		レベルに合わせた視覚支援をたくさん取り入れている。	玄関前に階段がある為、取り外しの出来るスロープ等の使用を検討中です。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		毎日の支援終了後の掃除、玩具の損傷の確認消毒を定期的に行っている。	今後も心地よく過ごせる空間になるよう努めます。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		クールダウン等しやすいよう、別室へ移動するときもある。移動出来るパーティションで集中できる空間を作っている。	引き続き、必要に応じて個別での支援も出来るよう設備を整えていく。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6		定期的に会議、モニタリング、子どもの様子の共有等行っている。	さらに、PDCAサイクルを回して業務改善をし、最善の支援が出来るよう努めていきます。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		保護者からの評価表をもとに、改善点等を職員間で、検討、実施に向け話し合っている。	職員で共有し、良い支援に繋げていきたい。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		定期的に会議を行っている。	必要な議題を話し合い、その結果をもとに業務改善に繋げていきます。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	2	保護者からの評価結果をもとに業務改善に努めている。	評価結果の話し合いを通してスタッフで共有し、業務改善に繋げていきます。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		それぞれの職員が、様々な研修に参加し、得た知識や情報を事業所内で伝達し、職員全体のスキルアップに努めている。	さらにスキルアップのためにより多くの研修に参加し、知識を高めていきます。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		適切に支援プログラムを作成し、SNSで公表している。	支援プログラムに沿って、より良い支援を行っていききたい。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6		日々、話し合いの機会を設けています。	アセスメント、モニタリングを通じて保護者や利用者のニーズを大切にし、個別支援計画に反映させていく。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		利用者の現在の状況を、話し合いを通じて把握し、共通の理解を図っている。	支援計画の内容を全員が共通の理解をし、利用者にとって最善の支援を行っていきます。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		支援計画の内容については、全員が閲覧できる環境作りに配慮している。	支援計画については、職員全員に聞きとり会議を行ったうえで作成していく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		日々変化していく子どもの様子を、様々な角度から観察し、記録しています。	さらに話し合いの機会を設けて、日々の子供の様子の共有を図っていきます。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		子どもの支援に必要な項目を適切に設定し、具体的な支援を設定しています。	放課後等デイサービスガイドラインをさらに理解し、利用者に適切な支援の項目を考えていきます。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		その日ごとに活動の担当を決めて、担当をメインとして立案を行っている。	活動プログラムを立案するうえで、ミーティングを必ず行っていく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		毎月、毎週どの利用者様にも様々な活動に参加できるよう、工夫してプログラムを組んでいます。	充実したプログラムになるよう、定期的に話し合いを行う。

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6		その日の子どもの様子に応じて、個別、集団支援を組み合わせで行っている。	利用者のその日の様子の把握を様々な角度から見て、より良い支援に繋げていきます。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	1	その日の支援内容、プログラムを話し合い、情報の共有を行っている。	その日行うプログラムの他に、その日利用する利用者の支援方法も必ず話し合う。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	2	申し送りや、lineのグループを用いて行っている。	送迎に出るスタッフが参加できない日もある為、支援終了後には必ず出勤している職員全員が参加できる時間を作る必要がある。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		成長記録やにやりほっとの記録を行っている。	記録を職員で共有し、支援計画にも反映させていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		必ずモニタリングを行い、利用者ごとの課題や支援方法を話し合っている。	定期的なモニタリングでは、利用者ごとに合った回数を設定しより、良いサービスに繋げていく。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	6		4つの基本活動を組み合わせ支援を行っている。	定期的に組み合わせの再検討を行っていく。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6		絵カード等を使用して、選択肢の提示を行い、自己決定支援を大切にしている。	さらに支援に工夫をし、社会性を育む支援を行っていく。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		担当者会議等、よく理解した職員と管理者が参加している。	関係機関とさらに連携を強化し、利用者の状況の把握をし、良い支援に繋げていく。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		学校や保育園と連携を行い、共通の支援を行っている。	どの学校も深く連携できるよう努めていく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6		学校によっては、情報の共有が難しいところとところもあり、その場合は利用者への聞き取りと学校への連絡等を行っている。	学校とさらに情報共有が密に出来るよう、考えていく必要がある。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6		園、事業所での様子を写真や文章を用いて、必ず情報の共有を行い、相互理解に努めている。	園での様子、事業所での様子をさらに共有できる場を作っていきたい。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	3	3	該当者なし	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3	3	研修等を受講する場を設けている。	さらに関係機関との連携を深めていきたい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2	4	地域の公園や図書館	公園や図書館以外にも交流の場を設けられるよう考えていく必要がある。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5	1	自立支援協議会へ積極的に参加し、連携を図っている。	さらに連携の強化が出来るよう努めていく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		日々の連絡帳や送迎時、必要に応じて個別での対応を行っている。	保護者様との連携をさらに強化できるよう努めます。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	3	今後はやっていきたい。	開催方法を考えていきます。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		契約時やモニタリング時において、丁寧な説明を行っている。	引き続き、毎モニタリング時に丁寧な説明を行っていく。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		保護者や利用者の意思を尊重し、面談時と、支援の際に行っています。	引き続き、保護者や利用者の意思の確認を実施し、個別支援計画を作成していく。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6		支援計画の内容を確認しながら、面談を行っている。	さらに、丁寧に説明し、意見交換をしながら同意を得ていく。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5	1	面談以外にも相談等がある場合には個別での対応を行っている。	引き続き、保護者からの相談があった際には、来所や電話、訪問を行い面談等を行う。

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	1	5	現在は保護者会等を行っておらず、今後は行っていく必要がある。	今後開催したいと思っています。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		すぐに対応し、次につながるよう職員間で連携を図っている。	引き続き、迅速に対応できる体制を整え、苦情等がないよう細心の注意を払う。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		Instagramやハグにて、日々の活動の様子や情報を伝えている。	さらに情報発信に努めていく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		成長記録等の氏名欄も穴あき等にし、個人情報の扱いには、十分留意している。	これまでと同様、個人情報の扱いに細心の注意を払っていく。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		日常の様子や保護者、本人の希望、視覚支援の方法等、保護者との話し合いのもと決めている。	さらに意思の疎通を行えるよう話し合いを密にしていきたい。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	4	事業所の行事に、地域の方を招待することは、まだ行ったことがない。	まずは保護者や関係者等を招待するプログラムを考えていきます。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		定期的に訓練を行い、マニュアルの確認をしている。	引き続き、マニュアルの確認と避難訓練を行っていく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		定期的に避難訓練を行っている。BCPの見直しも行っている。	引き続き、定期的な避難訓練の実施を行う。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		確認し、薬を預かっている利用者もいる。	利用開始前に薬等の確認を必ず行うよう努める。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	2	指示書が必要なアレルギーのある利用者がいない。	アレルギーのある利用者が利用した場合には、十分注意していく。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		安全計画を作成し、安全の管理が十分されたうえで支援を行っている。	安全計画を作成し、安全の管理が十分されたうえで支援を行っていく。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		安全計画に基づく取り組み内容について、保護者へ周知を行っている。	安全計画に基づく取り組み内容について、保護者へ周知を徹底していく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		事業所内で必ず共有し、再発防止に向けて話し合いを行っている。	再発防止に向けた話し合いをさらに強化していく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		虐待防止研修等、随時行っている。	積極的に研修に参加し、スキルアップにつなげていく。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6		契約時に必ず、保護者・子供に説明し承諾を行っている。	契約時のほかにも定期的に説明を行っていく。